

防災・減災プログラム なまずの学校(防災カードゲーム)

「なまずの学校」は、地震などの災害で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題者が出題(全18問)し、回答者はトラブルを解決するのにもっともふさわしいと思う「なまずカード(アイテムカード)」を出し、得点を競うゲームです。このクイズは、実際に阪神・淡路大震災や東日本大震災を体験された方々へのヒアリングやアンケートを元に作られています。

クイズの後は、実際に実物のアイテムを使った救助や避難方法等を体験する演習を行います。



活動のねらい・期待される効果

地震などの災害で発生する様々なトラブルを解決するために最も必要だと思うアイテム・行動を考える活動です。身近なものを使って災害を乗り越える方法をグループで考え、いざという時に役立てることができるようにすることがこの活動のねらいです。考えた後には、実際に身近なアイテムを使って救助や避難方法等を行ってみる体験活動を取り入れることで、より具体的な場面を想定した行動を身に付けることができます。
※カードゲームのみを行うこともできますが、実習を加えるとより効果的です。

一斉実施可能人数	60人 (1グループ3~6人程度)	活動季節・条件	通年
所要時間	2時間~半日または1日	実施場所	講堂・体育館・柔剣道場・研修室
主な対象	小学校中学年~ ※各グループに引率者などが出題者として入ることが望ましい。または、グループに分かれ、出題者は全体へ出題する方法も可能。		
指導について	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、職員が活動の流れと「なまずの学校」のルールを説明します。 ・次に、グループに分かれ、「なまずの学校」を体験する。(出題者から問題を出題し、アイテムカードを選ぶ。全18問。) ・カードの「防災一口メモ」を参考に、実物のアイテム(毛布、台車、新聞紙など)を使って、具体的な場面を想定しながら救助・避難の方法を体験する演習を行います。どのようにしたら安全に救助できるのか、避難できるのかなど、意見を交わしながら行うと効果的です。 ・最後に振り返りを行うことで、日常化へとつなげます。 		

準備物

交流の家が貸し出しできる用具・材料

・防災カードゲーム「なまずの学校」(最大10セット) ・毛布 ・バケツ ・新聞紙 ・ブルーシート (台)
・ロープ ・台車(最大3台)

利用者または団体で準備する用具・材料 ★印は、必要に応じて。

・活動しやすい服装 ・水筒 ・タオル ・履物
・演習に必要な身近なアイテム(★軍手 ★懐中電灯 ★三角巾 ★大判ハンカチ ★タオル ★ラップ ★アルミホイル ★レジ袋 ★リュックサック ★ガムテープ ★ポリ袋 ★レインコート ★ビニールひも ★ヘッドライト ★非常持ち出し袋 など必要と思われるもの)

当日の動き

- ①打合せ 活動時間、活動場所、具体的なねらい、プログラム内容・流れを確認します。
- ②用具の受け取り 事務室にて、活動に必要な用具を受け取ります。
- ④活動(展開) **職員によるルール・流れの説明を行います。**
グループに分かれて防災カードゲーム「なまずの学校」を体験します。
その後、身近なアイテムを使った演習を行います。
- ⑤ふりかえり 個々の学びをわかちあい、日常生活への関連づけを図ります。
- ⑥用具の片づけ 事務室まで、返却下さい。

安全対策・環境への留意点

活動しやすい服装を準備下さい。

備考

- ・プログラム効果を、日常化へと結びつけていくためにも、実施・紹介したプログラム構成や内容を参考に、日常生活の中での繰り返しの実践が必要となります。
- ・参加者が60人を超える場合には、交流の家までご相談ください。